

愛知県内のハイリスク新生児（NICU 収容児）
の退院後の地域での支援体制
（保健師活動）の実態調査

「愛知県周産期医療協議会」調査・研究事業
（平成 13 年度）報告書

調査・研究事業 主任研究者
あいち小児保健医療総合センター 長嶋 正實

研究協力者
あいち小児保健医療総合センター 山崎 嘉久

愛知県内のハイリスク新生児（NICU 収容児）の退院後の 地域での支援体制（保健師活動）の実態調査について

平成 13 年度愛知県周産期医療協議会調査研究事業報告

調査の背景、目的、対象および方法・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

分析結果

分析 1 . 家族アンケート調査の分析結果・・・・・・・・・・・・ 3

分析 2 . 家族アンケート調査に対する要因分析・・・・・・・・ 10

（医療機関から保健機関への連絡票に注目して）

分析 3 . 医療機関・保健機関間の連絡状況の分析・・・・・・・・ 12

調査背景

愛知県の新生児死亡は、国内においても世界の尺度からながめてもきわめて低い状態を達成し、その患者や家族のニーズは生命予後の向上から、より良質な生命の質の確保に移りつつある。「後遺症なき生存」は周産期医療従事者の普遍の願いではあるものの、その完璧な達成には幾多の困難が存在する。

愛知県においては、乳幼児健診の利用率が90～95%程度を維持するなど、大多数の乳幼児は保健機関からの保健サービスを受けていることが示されている。一方、保健サービスを受けることの少ないグループの乳幼児は、数こそ1割には満たないものの、医療的にも、社会的にも問題を有することが多く、母子保健の立場から、きめこまかな対応の必要なことが知られている。

このような中で、NICUでの入院加療を必要とする新生児は医療的にも社会的にもハイリスク要因を有するグループと認識されているが、地域社会における保健サービス実施の実態や内包する問題点の解決方法については、いまだ不明の点も少なくない。これらの点を明らかにすることで、これら患者と家族の生命の質の向上に寄与する可能性がある。

調査目的

愛知県においてNICU入院など周産期に高いリスクをもった新生児およびその家族が、退院後に地域から享受している保健サービスの実態の把握し、あわせてこれらハイリスクグループの新生児をとりまく医療機関・保健機関の相互連絡の実態とその問題点の所在を確認すること。

調査対象

平成13年1月から12月の期間に周産期医療協議会参加の医療施設を退院し、平成13年12月から平成14年2月にフォローアップ等の外来を受診した患者・家族のうち、調査への同意が得られた例。

調査方法・調査期間および分析対象

次の3つの方法で調査を実施した。

1) 医療機関に対する診療情報の調査（平成13年12月～平成14年2月）

愛知県周産期医療協議会に属する医療機関の新生児病床等で入院加療をうけた患者について退院前の状況、退院後の療育やリハビリテーションの状況などを主治医から調査事務局に報告した。

2) 家族へのアンケート調査（平成13年12月～平成14年2月）

上記医療機関の退院後のフォローアップ（主に小児科）で調査の趣旨について主治医から説明を行い、了解の得られた患者・家族に対して、退院後の保健サービスの利用状況や問題点などについてアンケート調査を依頼、同意が得られた患者から調査事務局に調査票が返送された。

3) 保健機関に対する調査（平成14年1月～平成14年6月）

医療機関より報告された患者情報（氏名、住所地ほか）により、患者住所地の保健機関（保健所または保健センター等）に対して、調査事務局から調査票を送付し、上記期間内における保健サービス等の実施状況を調査した。

調査票は1患者1枚で配布した。

調査期間中に医療機関から 397 枚の調査票が回収され、うち保健機関から 340 枚が回収された。このうち家族からアンケート票が回収されたのは 264 例を今回の調査対象として分析した(分析 2.家族アンケートの要因分析)。家族へのアンケート票は、外来で主治医により渡されており、家族の同意が得られながら、医療機関または保健機関から情報が得られなかった例が 96 例あった。これらの事例では調査に関して家族の承諾は得られたと判断し、家族アンケートの分析はこれらを含めた 360 例を対象とした(分析 1.家族アンケート調査の分析)。また、医療機関と保健機関の連絡に関して、医局機関と保健機関の情報のある 340 例を対象として分析を加えた(分析 3.医療機関・保健機関連絡状況の分析)。

調査回収状況と分析対象数

医療機関調査票	保健機関調査票	家族アンケート票	回収数
			264
	x		15
x	x		81
		x	76
	x	x	41
397	340	360	

調査回答総数	477
--------	-----

分析1	家族アンケート調査の分析対象数	360
分析2	要因分析対象数	264
分析3	医療機関・保健機関連絡状況の分析対象数	340

分析 1 . 家族アンケート調査の分析結果 (対象 360 例)

家族アンケートが回収された 360 例について、保健機関に対する患者・家族の利用状況を中心に分析した。360 例中保健所・保健センターからの連絡があったものは 246 例(68.3%)、保健師の訪問を受けたものは 193 例(53.6%)と約半数であった。訪問時の印象(複数回答)については、相談しやすかった 168 例(86.6%)、頼りになった 76 例(39.2%)、専門的な情報が役立った 29 例(14.9%)、情報がわかりやすかった 27 例(13.9%)と概ね好印象だった。

一方、子どもを保健所・保健センターに連れて行ったことがあるかという問いに対しては、「あり」222 例(58.3%)で半数強にすぎなかった。行った目的(複数回答)については、乳幼児健康診査 188 例(84.7%)と最も多いが、受診率で見ると 52.2%とかなり低い。気軽に利用できるかどうかについては、「はい」と答えたものが 148 例(41.1%)で、「いいえ」「わからない」が併せて 210 例(58.3%)と上回った。気軽に利用できない理由(複数回答)は、いつ行ったらよいかわからない 94 例(44.8%)、何をするとところかわからない 61 例(29.0%)、なんとなく 61 例(29.0%)と保健所や保健センターについて知られていない状況がうかがえた。その他、雰囲気が好きでない 20 例(9.5%)などのマイナスのイメージを持っているものもみられた。

なおアンケート回答者の退院日は、調査時点から半年以上前が 129 例、3ヶ月～半年が 104 例、3ヶ月以内が 122 例であった。

退院日	平成13年3月以前	4月～6月	7月～9月	10月以降	不明	計
回答数	59	70	104	122	5	360

1. お子様のことについて、保健所・保健センターから連絡がありましたか？

家族からの回答	はい	いいえ	わからない	未記入
n = 360	246 68.3%	110 30.6%		4 1.1%

2. 保健婦がお宅に訪問したことはありますか？

家族からの回答	はい	いいえ	わからない	未記入
n = 360	193 53.6%	166 46.1%		1 0.3%

3. 訪問の時の印象はいかがでしたか？

訪問した保健師に対する家族の印象 (複数回答あり n=193)

相談しやすかった	168	86.6%
頼りになった	76	39.2%
専門的な情報が役立った	29	14.9%
情報がわかりやすかった	27	13.9%
保健や福祉の仕組みがよくわかった	6	3.1%
何をしにきたかわからなかった	3	1.5%
覚えていない	2	1.0%
しゃべりにくかった	1	0.5%
その他の印象		

母乳の事など、自分ではわからない事を聞いたら、わかりやすく答えてくれるので、相談しやすかったです。こんなものか？と思いました。

笑顔で心配させる事なくよい所をほめてくれた。寝返りの練習の仕方など教えてくれた。

頼りになるとは言い難いかなじだった。

思っていた程、頼りにならなかった。

様子を見にきて下さったことで、少し心強くなりましたが、未熟児のことはあまりご存知ないようで、相談しても返事があいまいだった。インターホンだったのでよく覚えていない。

低出生体重児だったので、どんな所に気をつけたいかなど、教えてほしかった。

こちらから連絡して来てもらった。

体重など成長をみてもらったのは良かったけど、それから先の育児のことなども少しアドバイス等ほしかった。

連絡もなくとつぜん来られたのでこわった。子供が退院しないのに電話がきてつらかった！

しゃべりやすかった。上の子も小さく生まれたので、様子を見にきてくれるし自分自身もきばらしになる。

事前に相談事をきかれ、訪問時にその準備をして来てくれたので有意義だった。

若い子だったのであまり頼りにならなかった。でも話しやすかった。

最初は、娘をチェックしているようで何となく気分が悪かった。

若い方だったので頼りにできなかったが、近所の病院等の地図など後日、持ってきてくれてしんせつだった。

普通の健診と何ら変わらなかった。訪問後、電話連絡があって、友達になってほしい人がいると言ってきて、その後連絡なし!!

出産後に病院で指導されなかった事(授乳方法、あやし方、抱っこ仕方等)について指導を受ける機会がほしかった。

事務的だった。

一度チャイムを鳴らして勝手に扉を開け玄関に入ってみえたのがとてもいやでした。

こちらが扉を開ける前に一度チャイムを鳴らして勝手に扉を開け玄関に入ってみえたのがとてもいやでした。

未熟児だった為、精神的に落ちこんでいたところ、気晴らしができる明るく優しい方でした。

訪問にきてくれたけど留守だった。

子供の事なのにまだ退院もしていないのに聞くだけで子どもの様子をえてどうするのだろうと思った。

訪問を受けなかった家族からのコメント

病院にかかっていると云ったら、それ以来電話がかかってこなくなった。

上の子と同じ担当の人だったので訪問はなし。

新生児訪問連絡票を出しそびれた。出産後1ヶ月以内に出すことになっているが息子が退院するのが遅かったため、初めての子なので訪問してほしかった。

里帰り中だったため。

こわった。

4. 保健所・保健センターにお子様を連れて行かれたことはありますか？

家族からの回答	はい	いいえ	わからない	未記入
n = 360	222 61.7%	135 37.5%		3 0.8%

5. («あり」の方のみ) 何の目的で行かれましたか？

保健所・保健センターに行った目的(複数回答あり n=222)

			(利用率*)
乳幼児健康診査	188	84.7%	52.2%
予防接種	125	56.3%	34.7%
親子教室等への参加	35	15.8%	9.7%
公費受給の手続きや相談	28	12.6%	7.8%
子どもの健康や病気の相談	9	4.1%	2.5%
子育ての相談	6	2.7%	1.7%

利用率*: 保健サービス利用者数/家族アンケート回答者数

6. 保健所・保健センターを気軽に利用できますか？

家族からの回答	はい	いいえ	わからない	未記入
n = 360	148 41.1%	53 14.7%	157 43.6%	2 0.6%

7. («いいえ」「わからない」の方のみ) その理由は何ですか？

保健所・保健センターを気軽に利用できない理由
(複数回答あり n=210)

いつ行ったらよいかわからない	94	44.8%
何をやる所かわからない	61	29.0%
なんとなく	61	29.0%
雰囲気が好きでない	20	9.5%
連絡方法がわかenらい	17	8.1%
里帰り出産のため実家から遠いので	10	4.8%
子どもを外に出したくない	6	2.9%
その他	59	28.1%

保健所・保健センターを気軽に利用できない理由(その他の内容)

以前母子手帳をもらいに行った時の係員の対応があまり良くなかった為、あまり行く気にならない。
保健所やセンターも多忙だと思うので、必要な時は相談にのってもらいたいが気軽にではない。
調子がまだよくないから。鼻水が出て、病院の薬を飲ませている。

連絡しなすと言ったきり、一ヶ月以上も連絡もなく、担当者もいきなりかわってしまうなど少ししいかげんな所も有り、信用して話をして良いのか考えさせられ、相談しても真剣に話しをきいてもらえて、良き答えがくるのか心配で、信用できずに悩んでいる所です。これからは、色々とお世話になる所だと思っております、どういふうに活用していこうか考え中です。

子供が小さすぎて検診が合わない。

母親の体調不良のため外出がまだできない。

上の子供がいて外出が大変なので。

どういふ時に利用できるのか?又、連絡先及び場所もわからない。

担当の保健婦さんは問題ないのですが、電話した際、電話口に出られた保健婦さんの態度、傷つ様なことを言われ、保健所のイメージが悪くなった。

子どもがまだ小さいので、人込みに出るのが怖いです。

三つ子のため、一人で連れて行く事が出来ない。

保健所が遠く、公共交通機関で行きにくい。

どうしても困った場合は利用すると思うがそれ以外ではすぐに相談できる人にたよると思うので。

家から遠い。

保健センターは健康に生まれた子が行くところ。障害のある子には行きにくい…二度と行きたくない場所。

3つ子の為、外出が容易でない為。

かなり家から遠いので。(車で30~40分)思い過ごしかもしれないがお役所的な冷たい感じがする?

行く用事がないから。

一度行ってみようとは思ってる。一度行ってみたい。

長女もまだ小さい為、2人の子供を連れて訪問するのは大変だから。

気になる事はNICUとかで電話したりして聞いているので未熟児の事はよく分かっていない気がして相談できず病院のほうが安心するから。

交通の便が悪い。

特に育児上、困ったこともなく、また自宅から遠いため。

家が遠いので、双子なのでつれていくのが大変。

教室等、利用したいと思った事はあるが、上に就園前の子がいるので、思うように行けなかった。ちょっと朝が早いので、なかなか行けない。

頼りにならない!!予防注射を受けに行ったが、うちの子は先天性内反足と未熟児網膜症で眼科に受診と2ヶ所の病院を1Wに3回も行ったたりきたりとしてなかなか市で決められた予防注射の日と合わなくて、やっとつれても、48時間後にこれなければダメだと言われ、けっきょくまだやってないです。もっとそういう点に市も県も力になってくれませんか?親の都合じゃなく子供の都合でこれない、受けられない人もいます。市にTELしてもみんな決まってる日に来て下さい。と言われ、何も力になってくれずともムカツいてます。

健康診査以外利用したことがないのでわからない。

健診以外いつ行けばいいのかわからない。

初めての子供で、チャイルドシートの使用があまり好きでなく、後でぐずったりしたらどうしたらいいかわからなくなってしまう。でかける時は気合を入れて準備するので、とっても疲れる…。

わからない事などがあると実家の母や父に聞いたり、遊びに行ったりしているから。そして助けてもらっているから。

定期的に病院に通っている為、特に必要性を感じない。

行ってもどんな話を聞いてもらえるのかわからないし、現在定期的に病院に行ってるのでそちらの方がいろいろと分かってもらえているし、相談しやすい。

今のところ利用する必要性がないから。

家から車で15分~20分ぐらいかかるのでなかなか行けない。

必要だと今のところ思うことがないので注射や健診以外では利用したことがないから。

双子の為、連れて行くのが大変な為。

仕事をしているため。

相談してもあまり変わらない気がする。私にしかわからない悩みとあきらめてしまう。退院後、不安で保健所ではではない相談室に電話をしましたが、聞いてもらえず、しばらく悩んでうつっぽくなっていました。保健所の方からTELを待っていましたが、ありませんでした。自分から連絡する勇気がなく、そのままでした。

双子の為、連れて行くのが大変な為。

健診以外で利用したことがないため、雰囲気等よくわからない。

自宅から車で20分以上かかるので、保健所に利用しにくいという気がする。健診・予防接種は行くが相談等をしにわざわざ出向く気にはなれない。

双子なので、つれて出るのが大変なため。担当者がいない場合があるため。電話でも相談にのってくれるため。

子供2人を連れての外出が大変なので。

交通の便が悪い。

保健センターが遠いので。

連絡してから保健センターの所にいかなければならないから。

交通が不便、駐車場が狭い。

5.で答えた以外に利用する機会、期待するものがない。保健所以外(病院、助産所)の相談先がある。

駐車場が少ないので行きにくい。お役所仕事…という感じで書類等の手続きがおそい。

8. 低出生体重児の家族から、保健所への「連絡ハガキ」について

1) ハガキを利用しましたか？

家族からの回答	はい	いいえ	わからない	未記入
n = 360	180 50.0%	154 42.8%	20 5.6%	6 1.7%

「はい」と答えられた方のみ

2) ハガキを出したあと保健所からの連絡はスムーズでしたか？

家族からの回答	はい	いいえ	何ともいえない	未記入
n = 180	120 66.7%	29 8.1%	27 7.5%	4 1.1%

3) その後の保健所からのサービスは役に立ちましたか？

家族からの回答	はい	いいえ	その他	未記入
n = 180	99 55.0%	42 11.7%	26 7.2%	13 3.6%

保健所からのサービスが役に立っていない、または不明な家族の理由(複数回答あり n=81)

何にかかわからない	3	44.8%
なんとなく	2	29.0%
送ってもしかたがない	1	29.0%
低体重児でなかった	1	9.5%
その他		

「何か困ったこと等あったらいつでも連絡下さい」とのことでしたので、その後何もなかったが、相談できるところがあるということで安心できたと思う。

特にサービスは受けていない。TELが一度あったのみ。

何のサービスも受けていない。

どちらとも言えない。

保健センターの保健婦さんが訪問してくれる。

訪問はおこわりしました。

一度電話があっただけです。

まだ連絡なし。

子供が退院してきていないので保健婦の方が家へ訪ねるまでのあいだは何も連絡がなく病院で公費受給制度なども教えてもらった。

サービスとは具体的にどういうことだったのだろうかかわからないのでお答えしかねる。

体重と身長を計って少し会話をしただけで、具体的に援助してくれるワケでもなかった。

まだ出したばかりで連絡はありません。

実家でお世話になっているため、保健センターからも連絡が来てるかどうかかわからない。

サービスなんてなかった。

低出生体重児でしたが、二人目だという理由で、保健婦さんもきてくれなかったし、何か特別な事をしてもらったという記憶もありません。

送ったがまだ連絡がこない。

一度保健婦さんが来ただけなのでサービスと言えるかどうかかわからない。

自分たちで積極的に連絡する様にしたので、ハガキが役立ったのかかわからない。

まだ実家にいるので連絡が直接とれていない。

生後3ヶ月頃に1度だけのサービスでは役に立ったとは思えない。その後3ヶ月に一度の割合で、サービスがあれば、心配な事、心細い事など聞いてもら

退院したばかりでまだ連絡を受けていないので。

サービス受けてない。

特に何もなかった。

里帰り出産のままコロニーへ行ってしまったので保健センターからは連絡、訪問などはないです。

1回だけ訪問して、その後は何もなし。だから、意味が無い気がします。

実家でお世話になっているため、保健センターからも連絡が来てるかどうかかわからない。

何の連絡もなかった。

使いみちがまだ無い。

まだ1ヶ月しかたっていないので分からない。

覚えていない。

1回自宅に来てもらっただけなので何とも言えない。

サービスなんてあるのですか？ハガキをだしたっきりで何の連絡もありません。

特にサービスを受けたおぼえがない。葉書じゃなくTEL連絡したせいとか、別だんなんの知らせもない。

保健婦さんが一度訪問されただけで、特に低出生体重児への保健サービスを受けたというかんじではないので。多分新生児訪問とかわりないと思う・・・。

まだ受けていない為何とも言えない。

上の子供がいる為、訪問などはやめてもらった。

分からない。

直接ハガキ持参で、NICU退院後に訪問をお願いしたい旨、保健所へ連絡した。NICUを退院するとき「病院から保健所に連絡する」と言われたが、保健所からは何の連絡もなかった。

電話連絡をハガキを出す前にした。

「連絡ハガキ」を利用しなかった理由(複数回答あり n=154)

低体重児でなかったのに	62	40.3%
気がつかなかった	34	22.1%
何に使うかわからない	7	4.5%
ハガキを送るのがめんどろ	4	2.6%
送ってもしかたがない	2	1.3%
なんとなく	3	1.9%
その他		
特になし		
直接手続をしに行ったのでハガキは利用しなかった。		
ハガキはついていない。		
ハガキがついていなかった。		
なくしてしまい直接保健所へ電話した。		
私が入院して帝王切開術の為、動くことができなかったの主人がTelで届出をしていた様でした。		
Telで済ませました。		
ハガキが入ってなかった。		
入院していたので、家に来訪してもらっても困ると思ったから。		
宛先の所が保健所長、支所長様になっているが、どこに送ればいいのか、何て書けばいいのか分からなかったの、分かりや病院で管理してもらっている為。		
低体重といっても2350gと2500gですくすく体重も増えたから		
送ろうと思ったが出し忘れた。		
母子ともに入院が長く忘れていた。		
忘れている		
送る前に連絡があった?あまり覚えてない…。		
電話で話した。		
住所が県外だから。		
毎日、面会に行っている間に忘れてしまっていた。		
双子だった為ハガキ1枚に対してふたり分記入するのが不明で直接TELで確認したから。ふたり共低出生体重児でした。		
はがきをださなくても、きてくれた。		
昔、送って来てもらったが、一度きりだったし、体重や身長などを計ってただけで、あまり必要はないと思ったので。		
低出生体重児は送付するシステムを知らなかったしその時間がなかった。(ハガキに気持ちが行かなかった)		
ハガキはこのページについていますか?母子手帳を確認しても、分からないのですが。		
電話で連絡した。		
電話連絡の方が早いので。		
ハガキを送る前に電話連絡した。		
サービスで、どんな?		
東京都の母子手帳で、4月に引越してすぐに出産。そのため愛知県独自の保健サービスの情報が全くわからない状態でした。		
保健婦さんに来て頂くのが、忙しい時だと困るから。寝ているかもしれないし。		
忘れていた。		
ハガキを出さなくても出生届けの際、役場より保健センターへ直接連絡してくれた。		
県外から引越したばかりだったので電話した。		
公費受給の手続に行った次点で必要ないと言われたので。		
ハガキを出す前に保健センターから電話があったので。でも連絡ハガキはついてなかった気がします。ハガキを出さないといけ		
ハガキが見当たらなかったから。		
入院していて何でも聞いていたのでわからないことがなかったから。		
入院が1ヶ月以上だったので送る時期を逃がしてしまったので、こちらから保健所へ電話した。しかし2人目ということで保健婦		
保健所から訪問の連絡があったためハガキは利用しませんでした。		
養育医療給付の申請の時にハガキを送らなくても良いと言われたから		
他の手続に行った為		
母子手帳にハガキはついてないです。		

9. 育児や子どもの健康のことなど心配事を相談できる相手はありますか？

家族からの回答	はい	いいえ	わからない	未記入
n = 360	348 96.7%	9 2.5%		3 0.8%

10. (「ある」と答えた方のみ) 主にどなたに相談しますか？

心配事を相談できる主な相手 (複数回答あり n=348)

夫婦の間で	261	75.0%
自分の兄弟姉妹	123	35.3%
祖父母や親戚	251	72.1%
近所の人	50	14.4%
病院で知り合った友人	83	23.9%
以前からの友人	187	53.7%
病院の医師や看護師など	128	36.8%
保健師など	44	12.6%
助産師	2	0.6%
保育士	1	0.3%
その他		
産前の母親教室で(保健所主催)知り合った友人	1	
ベビー相談	1	
友人から紹介された方。	1	
ボランティアの人、児童館の人。	1	
育児サークルの仲間	1	
保健婦の友人	1	
母の友人	1	

11. 現在何か心配事がありますか？

家族からの回答	はい	いいえ	わからない	未記入
n = 360	164 45.6%	189 52.5%		7 1.9%

現在の悩み事の内容 (複数回答あり n=189)

子どもの病気のこと	80	42.3%
子どもの将来のこと	73	38.6%
生活のこと	27	14.3%
経済的なこと	22	11.6%
その他	110	58.2%

分析 2 . 家族アンケート調査に対する要因分析

(医療機関から保健機関への連絡票に注目して)

家族アンケートの結果を分析するため、医療機関情報、保健機関情報ともに明らかな 264 例を、医療機関から保健所・保健センターへ情報提供のあった 87 例と、情報提供のなかった 177 例に分けて検討した。

対象：264 例

医療機関情報、保健機関情報ともに揃った症例でかつ家族から調査の承諾が得られた事例。

1) 医療機関から保健機関に対して連絡票などの情報提供があった例： 87 例

2) 医療機関から保健機関に対して連絡票などの情報提供がなかった例： 177 例

に分けて、保健サービス利用の問題点について分析。

医療機関から保健機関への情報提供の有無とその背景因子

	情報提供あり		情報提供なし	
出生時体重				
<1,000g	9	10.3%	6	3.4%
<1,500g	20	23.0%	20	11.3%
<2,000g	27	31.0%	36	20.3%
<2,500g	25	28.7%	49	27.7%
>2,500g	6	6.9%	66	37.3%
多胎				
双胎	32	36.8%	31	17.5%
品胎	3	3.4%	3	1.7%
継続的な投薬	59	67.8%	129	72.9%
療育施設への通所	7	8.0%	13	7.3%

両群の患者の状態は、情報提供ありの群で、出生時体重がより小さく、多胎の頻度が高い傾向を認めたが、継続的な投薬、療育施設への通所などの患者背景には大きな違いは認めなかった。

保健所・保健センターに行った目的(複数回答あり)

	情報提供あり(n=87)		情報提供なし(n=177)	
乳幼児健康診査	48	55.2%	92	52.0%
予防接種	21	24.1%	58	32.8%
親子教室等への参加	15	17.2%	13	7.3%
公費受給の手続きや相談	4	4.6%	10	5.6%
子どもの健康や病気の相談	0	0.0%	8	4.5%
子育ての相談	1	1.1%	1	0.6%
その他	7	8.0%	7	4.0%

乳幼児健診のための来所や保健機関での予防接種の実施など、保健機関を利用した頻度は、ほぼ同様であったが、情報提供ありの群では親子教室等を多く利用していた。

訪問を受けた家族の印象と訪問の継続

	情報提供あり(n=87)		情報提供なし(n=177)	
訪問を受けた例数	68	78.2%	73	41.2%
訪問時の印象(複数回答あり)				
頼りになった	29	42.6%	30	41.1%
相談しやすかった	61	89.7%	63	86.3%
情報がわかりやすかった	7	10.3%	8	11.0%
専門的な知識が役立った	16	23.5%	9	12.3%
保健や福祉の仕組みがよくわかった	1	1.5%	3	4.1%
何をしにきたかわからなかった	1	1.5%	0	0.0%
何を言っているかわからなかった	0	0.0%	0	0.0%
しゃべりにくかった	0	0.0%	0	0.0%
覚えていない	0	0.0%	2	2.7%
その他	9	13.2%	14	19.2%
継続的な訪問の約束	15	22.1%	11	15.1%

家族アンケートから保健師の訪問を受けたのは、情報あり 68 例（78.2%）に対し、情報なしでは 73 例（41.2%）と、あきらかに情報提供ありの群で多く訪問されていた。また、訪問継続の約束も情報ありで多い傾向を認めた。一方、訪問時の印象はほぼ同じであった。

医療機関からの情報提供の有無と家族の主な相談相手

医療機関から保健機関への情報提供	家族の主な相談相手(複数回答あり)								
	夫婦間	兄弟姉妹	祖父母、 親戚	近所の人	病院で知り合った友人	以前からの友人	医師や看護婦	保健師	その他
情報あり (n=87)	56 64.4%	29 33.3%	61 70.1%	13 14.9%	24 27.6%	45 51.7%	30 34.5%	21 24.1%	7 8.0%
情報なし (n=177)	134 75.7%	68 38.4%	121 68.4%	28 15.8%	29 16.4%	86 48.6%	58 32.8%	15 8.5%	3 1.7%

育児等の心配事に関して相談できる相手として、情報提供の有無にかかわらず、夫婦間、祖父母、友人が上位を占めた。一方、情報ありの群の家族は、情報なしの家族に比べて約3倍の頻度で、保健師を主な相談相手としてあげた。

医療機関からの情報提供の有無による保健活動実施状況と家族の利用状況

医療機関からの情報	家族アンケート結果	n=		保健所・保健センターアンケート結果						
				訪問活動の実施	来所相談の実施	電話相談の実施	コーディネーター活動実施	育児支援教室参加勧誘	未把握	
情報あり n=87	訪問を受けた・連絡を受けた	61	70.1%	訪問実施	60	14	36	11	34	0
				未実施	1	0	1	1	0	0
	訪問を受けた・連絡なし	8	9.2%	訪問実施	8	4	1	3	5	0
				未実施	0	0	0	0	0	0
	連絡を受けた・訪問なし	10	11.5%	訪問実施	6	1	4	3	2	0
				未実施	4	1	3	1	1	0
	連絡なし・訪問なし	8	9.2%	訪問実施	2	0	0	0	2	0
				未実施	6	4	1	0	3	0
情報なし n=177	訪問を受けた・連絡を受けた	68	38.4%	訪問実施	62	11	26	18	17	0
				未実施	6	2	2	0	1	1
	訪問を受けた・連絡なし	5	2.8%	訪問実施	4	2	0	0	2	0
				未実施	1	0	0	0	0	0
	連絡を受けた・訪問なし	39	22.0%	訪問実施	3	1	2	0	0	0
				未実施	36	8	21	4	5	1
	連絡なし・訪問なし	65	36.7%	訪問実施	14	1	2	5	3	0
				未実施	51	10	7	2	0	17

保健機関が実施した保健活動調査からも、訪問の実施、来所相談の実施、電話相談の実施、他機関（福祉関係、他保健機関、保育機関等）へのコーディネーター活動、ならびに育児支援教室等への参加勧誘などの項目においても、情報提供ありの群で多く保健活動が実施される傾向を認めた。また、情報提供なしの場合には、19例で保健機関が患者を未把握であったのに対し、情報提供ありの場合には、未把握例は認めなかった。

今回の調査結果から、ハイリスク新生児を持った家族にとって、(1) 保健所・保健センターは周知度が低く、乳幼児健康診査の利用がきわめて少ない。(2) 保健所・保健センターは、気軽に利用できる施設とはいえないことなどが明らかとなった。一方、保健所・保健センターは、医療機関からの情報提供があった場合、訪問以外に電話相談や来所相談など何らかの方法でハイリスク新生児を把握しフォローしていること、また乳幼児健康診査の受診や親子教室への参加なども情報提供があった場合の方が多く、その結果として家族の信頼も厚く、利用者が比較的多いことが示唆された。

以上より、ハイリスク新生児の退院にあたっては医療機関から家族に対して保健機関の利用を説明し、保健機関へ情報提供することは、患者の退院後の支援体制強化に有用と考えられた。また、保健所や保健センター側も医療機関に対して積極的に連絡をとるなど自施設の機能・役割について理解を得る必要があると思われる。

分析 3 . 医療機関・保健機関間の連絡状況の分析（対象 340 例）

医療機関と保健機関の情報があきらかな 340 例を対象として、その連絡状況について分析を加えた。

保健機関が医療機関から直接情報提供を受けたのは 77 例(22.7%)で、その頻度は患者の居住地ならびに入院先の医療機関により違いを認める傾向にあった。保健機関が患者の存在を把握した方法として最も多いのは低出生体重の届出票(94 例)や出生票・出生届(75 例)などによることが多く、健診の問診での認知、家族からの相談などが続いた。また、保健機関での未把握例は 28 例(8.2%)で、これも地域差を認めた（別添表）

医療機関から保健機関への情報提供状況、および保健機関の患者把握方法
(患者居住区域別の分析)

患者居住区分	入院医療機関	症例数	医療機関調査	患者を把握する方法(保健機関側視点)				患者を把握する方法(保健機関側視点)					保健機関からの把握					
				医療機関からの情報提供(患者居住区分別)	保健機関からの情報提供(患者居住区分別)													
一宮市、尾西市、花房町、東平郡(尾西郡) (一宮保健所管内)	一宮市民病院 「一宮市民病院」 名古屋第一赤十字病院	24	0	0	0	0	0	4	1	0	15	0	1	0	0	0	0	0
瀬戸市、刈谷市、岡崎市、日知市、豊田郡 (瀬戸保健所管内)	公立瀬戸病院 「一宮市民病院」 名古屋市第一赤十字病院	24	24	14	14	0	0	10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
春日井市、小牧市、春日井保健所管内)	春日井市民病院 公立春日井病院 「一宮市民病院」 名古屋第一赤十字病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
大井町市、江橋町、岩倉市、丹羽郡(江南保健所管内)	一宮市民病院 公立丹羽病院 「一宮市民病院」 名古屋第一赤十字病院	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五番目町(市橋保健所管内)	一宮市民病院 「一宮市民病院」 名古屋第一赤十字病院	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新井町	公立新井病院 「一宮市民病院」 名古屋第一赤十字病院 公立新井病院	2	4	2	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
江島市、海部郡(江島保健所管内)	海部市民病院 「一宮市民病院」 名古屋第一赤十字病院	3	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
常陸市、岡崎市、八幡町、知多市(知多保健所管内)	公立知多市民病院 「一宮市民病院」 名古屋第一赤十字病院	3	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0
岡崎市、鏡山郡(岡崎保健所管内)	岡崎市民病院 海部市民病院 「一宮市民病院」 名古屋市第一赤十字病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊清市、刈谷市、犬伏町、知立市、瀬戸市(犬伏保健所管内)	公立犬伏市民病院 「一宮市民病院」 名古屋市第一赤十字病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
荒尾市、鶴岡郡(荒尾保健所管内)	鶴岡市民病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊川市	公立豊川市民病院 名古屋市第一赤十字病院	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吉田郡、東加茂郡(東加茂保健所管内)	「一宮市民病院」 名古屋市第一赤十字病院	23	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
新城市、北設楽郡、南設楽郡(新設楽保健所管内)	豊橋市民病院 「一宮市民病院」	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊橋市	豊橋市民病院 「一宮市民病院」	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊川市、新城市、南設楽郡、東豊郡(豊川保健所管内)	豊橋市民病院 岡崎市民病院 豊橋市民病院	11	36	36	36	0	0	10	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0
合計		640	0	77	76	1	4	64	33	37	75	15	0	5	10	36	0.2%	

注1: 同一居住区分に複数の医療機関がある場合は、その医療機関ごとに集計する。
注2: 保健機関からの情報提供(患者居住区分別)は、患者居住区分別の集計値である。

患者居住区分	症例数	医療機関調査	患者を把握する方法(保健機関側視点)				患者を把握する方法(保健機関側視点)					保健機関からの把握				
			医療機関からの情報提供(患者居住区分別)	保健機関からの情報提供(患者居住区分別)												
合計	640	0	77	76	1	4	64	33	37	75	15	0	5	10	36	0.2%

愛知県下のハイリスク新生児（NICU 収容児）の退院後の地域での支援体制（保健婦活動）の実態調査
【保健活動・二次調査票】

患者様氏名： 年 月 日生 男・女 保護者氏名： 続柄（父・母・ ）

住所：〒□□□ - □□□□ 電話：() () ()
市・郡 区 町・村 番地

在胎週数： 週 日、出生体重： g、第 子/ 人 多胎：

診断名（合併症等）：

退院日： 年 月 日

1. 患者の存在をどのように知りましたか？（ はいいくつでも）

a 病院から情報提供（ 連絡票・ 診療情報提供書・ その他）を受けた・

b 低出生体重児届出書による連絡・c 家族からの相談・d 健診の問診で認知・

e その他（ ）

2. 実施した保健活動の内容（実施した活動の番号 a~f を で囲んで具体的に記入ください）

a. 訪問：1)初回時期（ ）頃 2)現在までの訪問回数（ ）回、

3)継続の必要性（なし・予定・現在継続中）

4)主な内容：

b. 来所相談：1)初回時期（ ）頃 2)現在までの相談回数（ ）回、

3)継続の必要性（なし・予定・現在継続中）

4)主な内容：

c. 電話相談：1)初回時期（ ）頃 2)現在までの相談回数（ ）回、

3)継続の必要性（なし・予定・現在継続中）

4)主な内容：

d. 他機関へのコーディネート

1. 福祉関係（施設名 ）

内容：1)公費受給援助 療育手帳・ 身体障害者手帳・ 小児慢性特定疾患・
精神保健福祉法 32 条・ 乳児医療・ その他（ ）・

2)その他福祉関係機関へのコーディネート（ ）

2. 保育関係（施設名 ）

内容：

3. その他機関名（施設名 ）

内容：

e. 育児支援教室等

1)参加勧誘・2)その他支援活動（ ）

f. その他：（自由記載）

施設名：

ご協力ありがとうございました。

記入日： 年 月 日

愛知県周産期医療協議会

この調査については家族の了解を得ています

「貴施設（保健機関）」 「あいち小児保健医療総合センター」へ郵送お願いします。